新潟県 公民館月報 8

平成14年8月号　通巻第594号

表紙　24時間耐久
リレーマラソン
「ロ・マン24」
（松代町公民館）

特集　第43回関東甲信越静公民館研究大会
本県担当分科会発表要項より　その2

視　　点　大人気講座「初めてのピアノ」
ひ ろ ば　遊びを考える
サークル交流　トップハット（新井市公民館）
　　土曜クラブ（黒川村公民館）
素顔拝見　高口秀樹（新発田市）
　　滝沢　誠（大島村）

第43回関東甲信越静公民館研究大会
兼第53回新潟県公民館大会開催間近に迫る!!

約千百余名の参加予定―豊浦町月岡で―

八月二十九日㈭～三十日㈮　十五分科会で協議

大会事務局実行委員会では、当日に向け最終の作業確認態勢に入った。

○総務部では、県内外会員、来賓、コーラス、アトラクション出演団体の受付業務体制、そして、来賓、主催者、記念講演講師の胸リボンの確認等を行っている。

○広報部会では、大会資料の印刷、製本、納品日程、大会当日の取材、全体会記録の担当、カメラ取材の予想場面、時間設定等を行っている。

○全体会部会では、第一日目のオープニング、開会式、基調提案までの流れにそれぞれ担当者を記入、そして、第二日目の開会前の県大会、アトラクションの「宝来太鼓」、記念講演「縄文人の意識改革」、表彰式①全公連表彰②関ブロ公連表彰、閉会式に到るまでの流れ（時間）と担当者の確認を行っている。

あとは、司会進行の平井葉子元アナウンサーとの放送原稿の詰めを行うばかりである。

○本大会でのメーンとなる分科会部会では分科会運営要領を作成し、①事前打合せ会の設定、②分科会の進め方、③各係の役割及び留意事項等の内容確認を行っている。また、分科会各部会の運営計画表、記録用紙の作成を行い、落ちのないよう細心の注意を払って当日を迎えようとしている。

○輸送部会では、新潟駅出迎えシャトルバスの運行添乗、道路及び駐車場案内の配置計画を、第一・二日の両日にわたって作成している。

大会前日の八月二十八日㈬には、地元豊浦町公民館で、大会資料、関係資料の袋詰め作業を行った後、大会会場に搬入の予定となっている。

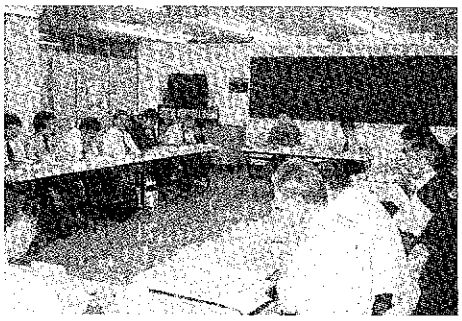
それから今回の大会では、第一日目の夜、ホテル宿泊参加者を対象に歓迎夕食会を行うこととしている。県内各市町村公民館から提供いただいた越後の地酒の試飲、そして佐渡おけさの踊りの手習い会を行うこととしている。

それでは、皆さんのおいでをお待ちしながら大会が成功裡に終えることを祈念したい。

◇実行委事務局会議開催

○平・14・7・18㈭
○新潟市中央公民館
○県公連理事大会実行委員約50人

○各部会長から詳細進行担当計画が提案された後、細部についての質疑・検討協議がなされた。



◇全公連優良職員表彰

氏　名	所属公民館並びに役職
倉石義行	新井市公民館　前館長

◇全公連永年勤続職員表彰

氏　名	所属公民館並びに役職
平田栄子	新潟市曽野木地区公民館　主幹
戸田洋子	柏崎市北条公民館　地区指導員
伊藤佐近	糸魚川市上早川公民館　前館長
中谷万里子	糸魚川市大和川公民館　副主事
中村耕次	聖篭町公民館　副館長
八木一也	吉川町公民館　前館長
貝沼英雄	朝日村公民館　公民館主事

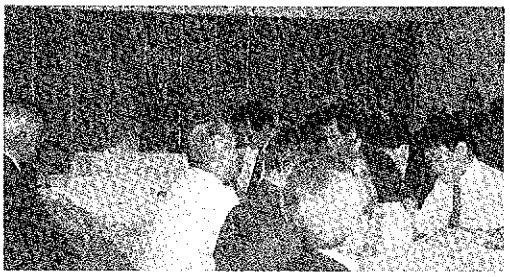
※大会第2日目の30日全体会で表彰

『公民館運営審議会委員の手引―改訂版―』完成!!　A4判　500円　68ページ（送料実費）

『全公連50年史』㈳全国公民館連合会　B5判　3,000円450ページ（送料実費）

新潟県公民館五十年誌　A4判　313ページ　3,000円（送料実費）

新潟県公民館振興市町村長連盟 平成14年度総会が開催される



新副会長に湯田幸永（新津市長）
新理事に木浦正幸（上越市長）
新監事に伊藤勝美（村松町長）
それぞれ補充選任

○平14・7・5㈮
○新潟会館で

平成14年度新潟県公民館振興市町村長連盟の総会が、去る7月5日㈮新潟会館で開催され、来賓には新潟県教育次長永井誠一様、新潟県市長会事務局長土田義司様、そして本会今井昭友会長を迎えて開会した。

議事は、平成13年度会務報告及び歳入歳出決算についての承認、役員補充については、新副会長には湯田幸永新津市長、新理事には木浦正幸上越市長、新監事には伊藤勝美村松町長を選任した。次いで全国公民館振興市町村長連盟の名称変更に伴い、当新潟県公民館振興市町村長連盟規約の一部改正を行った後、平成14年度重点目標並びに事業計画と歳入歳出予算案が提案され、原案どおり承認された。また、第43回関東甲信越静公民館研究大会の共催についても承認された。

最後は、「女性問題」についての事例発表が、長岡市中央公民館主任関和代様からなされた。

視点

上越市は文教都市として、もともと生涯学習活動が盛んな土地柄である。公民館職員としても限りある予算の中で市民のニーズに応えながら質の高い事業の提供を、と腕の奮いがいがあるところ。

大人気講座「初めてのピアノ」

秋山　千恵子

四月に赴任して一番新鮮に感じた講座が「初めてのピアノ」だ。私に限らず、熟年世代にとってはピアノを弾く、ということに密かな憧れを抱いているものだけれど、今更習う自信がない、というのも正直な気持。その思いを逆手に取る「初めて鍵盤楽器に触る方」という条件が受けたか、若い男性を含む申込みが殺到し、厳正な抽選の結果、女性十人が受講の席を得た。

「子どもの頃の夢の実現を」「家のピアノと脳細胞両方の活性化」「子どもと一緒に弾きたい」と受講の動機は様々だが、「公民館なら気軽だから」と一様におっしゃる。そして「自信がついたら今度は民間の教室へ」とちゃんとステップアップも計画していて、生涯学習の初歩段階として公民館講座が活用され定着していることがわかる。

教室は基本的な指の操作から始まり、最終十回目には家族を招いてミニコンサートを行う。受講した皆さんの晴れやかな笑顔を期待し、ともに楽しませていただきたいと思っている。

（新潟県公民館連合会副会長　上越市公民館館長）

ひろば

遊びを考える

栗島浦村公民館社会教育委員　関　久志

私たちは、誰もが「遊びの達人」の時代があったように思います。近所の仲間と一緒になって、ビー玉・パッチ・ベーゴマ・くぎさし遊びに夢中になり、竹とんぼ・杉玉鉄砲を作り、ゴム跳び・鬼ごっこ・かくれんぼ・走り競争や将棋遊びを楽しみ、チャンバラ・魚とり・相撲・三角ベース野球などなど、学校が終れば暗くなるまで、日曜日は朝から晩まで外で、倉庫の中やお宮の縁の下で、まさに遊びの達人であったように思います。

仲間と群れて遊べば、共に達成感を味わって協調心や責任感の大切さを感じ取るでしょう。時にはトラブルもあり、人間としての強さや弱さを体験し正義感も育まれるでしょう。遊びには失敗もつきものです。失敗を乗り越えるたびに自立に目覚めるでしょう。夢中になって遊ぶことにより生きる喜びを体感するでしょう。私たちは、遊びの中で生きる知恵を体得し、臨機応変に対応できる力を身に付けてきたように思います。

今、子どもたちの遊びは一変しました。少子化により近所に遊び仲間は少なく、家の中でテレビゲームに熱中する時代です。当地の「遊びベスト10」のアンケート調査によると、「遊び場所」では、自分の家、友達の家が一位、二位を占め、「遊びの内容」では、屋内遊びに呼応してテレビゲームやパソコンが男女とも一位でした。栗島に海や山など豊かな自然があっても、遊びは全国共通のテレビゲームである実態です。子どもたちを取り巻く環境や時代の変化の中にあって、かつて私たちが体験してきた遊びの復活は難しいのでしょうか。

大人から与えられたおしきせの遊びではなく、子どものための、子どもにとっての遊びを子ども自身が見い出す、そんなものが、いま教育に求められているのではないでしょうか。

平成13年春、講座は終了し、受講生の有志でつくられたサークル“今町未来予想図”として独立し、会長として運営審議会委員の一人が任命されました。

② 酒田市今町との交流

平成13年、酒田市今町の郷土史家が中之島の方からインターネットで酒田音頭と今町未来予想図についての情報を得て、今町公民館へ酒田音頭に関する問合せがありました。

見附市今町は越後平野の南東部にあり、江戸時代に信濃川舟運の川港として繁盛しました。北前船による日本海交易が盛んだった寛永年間（1624～1643）ごろ、酒田市今町の船頭十数人が移り住み舟運の仕事をしていたそうです。その子孫が故郷を偲んで歌ったのが今町酒田音頭の発祥とされています。

しかし、見附市今町では酒田音頭についてよく知らない人が多くなってきていました。そこで、公民館と共催で酒田音頭講習会を民踊クラブの方々の助けを借りて行い、その成果を酒田市の港祭り（2001酒田港の夕べ）と（今町の夏祭り）で披露しました。

(2) まるごと体験酒田音頭

今年、更に酒田市と交流するにあたり今まで形骸化していた酒田音頭保存会の再発足が公民館を中心に行われ、保存会（未来予想図・民謡クラブ）、公民館が協力し合い、「まるごと体験！酒田音頭」が計4回シリーズで行われます。

4．取組みと成果

その他、ウォーキング班もマップを作り全戸配布をし、そこから発生したウォーキングクラブは、毎週日曜日の早朝1時間くらい皆でいくつかのウォーキングルートを歩きながら、今町のウォーキングファンを増やすことに貢献しています。花いっぱい運動も“にいがた緑の百年物語”の助成金をいただき、植樹を行うなどの活動をしています。

このように公運審が中心として今町未来予想図講座から始まった動きが、地域住民と公民館のみならず各地の人々を巻き込んだ大きな成果を生み出してきました。

運営審議会委員が今町未来予想図講座に住民として参加することにより、住民の学習意識や公民館への意見に耳を傾けられ、その意見を公運審として会議で反映することができました。その結果、単発で終る講座が多い中、6年間もの時間をかけ公民館の講座から住民が独自で運営できる活動へと進化させることができました。今後も公民館としてはなんらかの形で（今年は“まるごと体験！酒田音頭”）かかわっていく予定です。

今後更なる住民と公民館のパイプ役として、またはそれらのチェック役として活動していきたいと思います。

5．今後の課題

未来予想図は1例で、その他の多くの活動の中で公運審は活躍しているわけですが、今後の課題として継続審議が挙げられます。本年度より、今までの運営審議会で問題点ではあるが年4回の会議の中ではなかなか取り上げられることができなかったことについて継続的に話合いを行うことが決まりました。1つの問題点をとことん最後まで回数や予算を気にしながらではなく、討議し結論を出して行きたい思いから、公運審としてでありますが、あくまでも住民の立場で行う予定です。今後、それがどういった効果をもたらすのか楽しみです。

住民代表の公民館運営審議会委員として、その結果を「学びのコーディネーター」である職員の方たちとともに公民館や地域で反映していければと思っています。

第4分科会　公民館活動のアピール方法　～地域に密着した広報活動～

読者の側に立った館報づくり

新潟県湯沢町公民館　主事　青山　薫

1．概　要

湯沢町は、新潟県の最南端に位置し、町内を上越新幹線、JR上越線と関越自動車道、及び国道17号線が走っている新潟県の表玄関口です。周囲は山岳に囲まれ、上信越高原国立公園の谷川連峰や霊峰苗場山等の2,000m級の山々によって群馬県・長野県に接しており、総面積は357㎢と広大ですが、石白・両山のわずかな盆地を除いては、ほとんど急峻な山岳であり約94％を山林が占めています。美しい自然と豊富な温泉、苗場スキー場をはじめとする18ケ所のスキー場、スポーツ施設のそろった湯沢中央公園、湯沢高原高山植物園「アルプの里」等の恵まれた観光資源を持ち、ノーベル文学賞受賞川端康成の小説『雪国』執筆の地であり、現在では年間約750万人の人々が訪れています。

湯沢町公民館は、生涯学習の拠点として幼児から高齢者までの各階層の多くの住民が気軽に使用できる施設を目指し、その利用促進を図っています。入館者は、平成13年度において70,000人を超えており、うち半数以上の約41,000人は図書室の利用者となっています。

今後とも、公民館が学習の場・ふれあいの場・憩いの場として住民に親しまれるよう、また各種ニーズにあった学習機会の充実を図りながら、豊かで明るく住みよい文化の香り高い町づくりを目指していきます。

2．広報活動の取組み

(1) はじめに

公民館広報誌「館報ゆきぐに」の前身は、旧湯沢村の館報としてスタートした昭和25年10月25日発刊の『湯澤公民館報』です。当時は、不定期発行でしたが村広報の役割も担い、『湯沢公民館だより』（昭和27年3月～、年4回発行）、町村合併後は『ゆざわ』（昭和31年6月～、年4回～9回発行）と題名を変え、昭和43年12月（第75号）より毎月発行となり、形式・紙質とも改めました。また、その後昭和46年に町広報誌【広報ゆざわ】の創刊に伴い、公民館報は新しく独立し『館報ゆきぐに』として昭和47年7月から再スタートを切りました。これを契機に、純然たる公民館報として町民の活動の様子や公民館活動、またスポーツ・文化・学習成果のお知らせなど幅広く紹介する情報誌として刊行しています。

なお、住民からの要望もあり記録資料用・保存用として館報の縮刷版を、次のとおり発刊しました。

6頁へ

特集
第43回関東甲信越静公民館研究大会　本県担当分科会発表要項より
その2

第3分科会　住民代表としての公民館運営審議会
地域に立脚した公民館運営審議会活動

新潟県見附市今町公民館運営審議会委員　清水洋子

1．見附市の概要

面積　77.92㎢　人口　44,368人
世帯数　12,820世帯（平成14年6月1日現在）

見附市は新潟県の正に中央部に位置し、「新潟県のへそ」として売り出しています。また、まちづくりの方針として「トータルファッションシティ」というううたい文句を掲げ、人やまちの外面・内面等の総合的な美や豊かさを飾り上げていくまちづくりを進めています。

戦後の町村合併促進法により昭和29年から31年までの間に2町4村が合併し、見附市が誕生しました（市制施行は、昭和29年）。また、繊維と農業を基幹産業に発展してきましたが、現在は第3次産業に従事する市民が約半数を占めています。

2．見附市の公民館

公民館数6館（中央公民館、北谷公民館、葛巻公民館、新潟公民館、上北谷公民館、今町公民館）運営者数128人（運営審議会委員51　事業推進員23　生涯学習プランナー33　常勤館長1　非常勤館長5　常勤職員9　パート職員6）

見附市では、公民館6館並立制（各公民館は予算・事業実施・公運審などそれぞれ独立していて対等な立場にある）を採用しています。公民館は昭和24年から合併前の旧町村それぞれに設置されていましたが、合併の際に公民館を旧町村単位にそれぞれ残すことが合併条件の一つであったことに由来します。ただ、中央公民館は各公民館の連絡調整や市内全域を対象にした事業の実施など中央館の役割も果たしています。また、中央公民館には生涯学習プランナー（実生の会）が、ほかの5館に事業推進員（地域住民）がおられ、事業の企画運営に携ってもらい、より地域に根ざした公民館活動の推進を図っています。この生涯学習プランナー・事業推進員の導入は、平成9年度から開始しました。このように地域の実情に即した「6館並立制」と、また、市内全域に対応した公民館活動の「センター制（中央館で事業計画をたて、全地域対象事業の実施や地区館へ出前講座などを行う）」という両方の長所を活かせる公民館体制の実現に取り組んでいます。

3．今町公民館の取組み

今町公民館運営者数18人（運営審議会委員9、事業推進員6、非常勤館長1、常勤職員2）

今町公民館の今年度の重点施策は、以下のとおりです。

ア　地域の歴史や文化に対する住民の関心を喚起し、保存・継承に向けての取組みの充実を図る。
イ　地域団体が社会に向けて行う活動を支援し、自立した相互学習の充実を図る。
ウ　学校・各種団体との連携を強化し、地域の青少年の健全育成を図る。

アに関して“まるごと体験！酒田音頭”が今年の新規事業として行われます。ここでは、酒田音頭と公運審がいかにかかわってきたかを紹介していきたいと思います。

(1)　今町未来予想図

平成9年当時、今町ではたくさんのすばらしい人材がいるわりには地域活動に目を向けている人が少なく、そういう意気込みがある人を活かし、また地域課題の発掘の仕方を知ってもらうために、翌年2月、運営審議会委員が意見を出し、まちづくりコーディネーターを講師に、今町未来予想図講座が公運審を中心に多くの住民の参加を得て4回行われました。地域に目を向けて今町を知ろうということで探検地図が作られ、各班で発表が行われました。

その秋、第二次今町未来予想図講座が3回シリーズで行われ、今町を改めて知って問題点を踏まえた上で今町の未来をワークショップ形式で討議しました。その中から出てきたすばらしい未来が、「全国今町サミットを行おう」と「今町の花を決めて育てよう」と「健康ウォーキングのモデルコースをつくろう」でした。

①　南魚沼郡大和町今町との交流

平成11年、未来予想図講座は今町交流・花いっぱい班とウォーキング班に分かれ、事業推進員が中心となり新たな講座としてスタートしました。

「全国今町サミット」の手始めとして、まず全国の今町を調べたところ、20ヵ所の今町がありましたが、いきなり全国サミットは無理ということで、県内の今町から交流を始めようということになりました。

南魚沼郡大和町の今町は、農林水産大臣賞を貰うなど大変町づくり活動が盛んなところです。それでまず大和町の今町と交流してはということで、バスを仕立ていろいろな活動を見学させてもらいに行きました。コミュニティーセンターを作り、若者に開放しているなど大変参考になりました。そして、見附市今町・中之島町大凧合戦に大和町今町の方が来ていただけることになり、事前にメンバーの1人でもある郷土史家の方から今町の歴史や名前の由来など講座が設けられました。

それから毎年、6月に大凧合戦、10月には大和町今町の野沢菜摘みと交流が続いています。

4頁へ

4頁より

第1巻　1号～140号（昭和51年3月）　昭和51年4月発刊
第2巻　141号～250号（昭和60年8月）　昭和60年10月発刊
第3巻　251号～329号（平成4年3月）
第4巻　330号～377号（平成8年3月）　平成13年12月発刊
第5巻　378号～437号（平成13年3月）

当時の町の様子や活動・行事・参加の思い出として、また時代の変遷の記録資料として町民に頒布しています。

(2)　公民館報【別紙資料】の発行内容

①発行回数　月1回
②発行日　第3日曜日
③規格　A4判、4・7・10・1月号表紙表裏カラー、8～16ページ
④印刷　業者委託
⑤部数　4,050部
（新聞折込3,600部、直送200部、公共施設他250部）
※昭和59年までは町内分館長配布
⑥紙面構成
ⓐ表紙絵―全国童画展入賞・入選者の作品掲載（平成14年度―第6回展）
ⓑ例月原稿―町民憲章、月間事業カレンダー、図書室だより、こども電話相談
ⓒ表紙（裏）　公民館事業などのお知らせ
ⓓ社会体育関係―各種スポーツ事業の募集、結果（スポーツ湯沢欄）
ⓔ社会教育関係―成人講座・サークル等の募集活動状況、国県等よりの掲載依頼
ⓕ投稿―住民からの投稿（1回の投稿字数は、タイトル・氏名含み950字以内）
※「両山短歌会」は22年間1回も休まない長寿投稿（当初町から原稿依頼）
⑦発行までのスケジュール
前月第4（5）週―原稿作成及び収集（投稿等の原稿締切り月末）
第1週―原稿割付、印刷業者依頼（前半）、初校（後半）
第2週―2校、3校（前半）、製版、印刷（後半）、業者より新聞店搬入（土曜）
第3週―新聞折込（日曜発行）、直送分等発送作業
⑧館報用ファイル（兼公民館事業の情報掲載）【別紙資料】の配布
各世帯（分館長）配布、約2,700世帯

(3)　その他の広報活動

①子育てカレンダー（子育て情報）☞【別紙資料】
平成7年5月～
ⓐ目的　児童育成計画―エンゼルプラン―に基づき胎児期からの子育て支援施策を学校教育・福祉保健担当部局、関係団体と連携し、子育て支援センターを中心に総合的子育て支援事業を展開する。
ⓑ発行回数・発行日　月1回、月末
ⓒ規格　A3判（両面）、A4判（両面）各1枚
ⓓ印刷　手作り
ⓔ対象者　0歳～3歳未満児のいる家庭にダイレクトメール。（約250世帯）

②湯沢子どもニュース（子どもと家庭の情報誌）☞【別紙資料】　平成14年～
ⓐ目的　学校週5日制の導入に伴い、小・中学生や保護者に対しての情報提供を行ない、子どもや親子で地域の体験活動や団体・サークル活動への参加促進を図る。
ⓑ発行回数・発行日　年6回（隔月）、月末⇒第1号　7月発行
ⓒ規格　A3判（両面）　1枚
ⓓ印刷　手作り
ⓔ対象者　町内各小中学校の親子（児童生徒、学校配布、約800人）

3．現状の問題点と今後の課題

(1)　現状の問題点

館報ゆきぐにとして新たにスタートを切った当初は、原稿が集まらず毎月発行ができなかった時もあったようです。また、何のための、あるいは誰のための館報なのか当時の編集者は自問自答を重ね、悩みが尽きなかったようです。

この時代の編集担当者は、今以上に苦労していた経緯が理解できます。現在も同様で、編集者は記事の出来栄えについて常に心の中で葛藤しており、よくも悪くも何らかの評価がほしいと思いますし、それによって次への意欲も変って来るのですが、実際は自分で自分を誉めているのが現状です。

(2)　今後の課題

「館報ゆきぐに」に改題して以来、この7月号で30年が経過しますが内容についてもマンネリ化が言われている時代、どうしたらポイ捨てされず内容に目をとおしてもらえるか悩みはつきません。また、館報印刷に係る予算もマイナス査定される中、いかに効率よく住民に情報を提供するか大きな課題と言えます。今後のあり方として検討すべき内容は、

①編集委員会の設置
②住民参加の館報とは
③配布方法の見直し
④情報提供のあり方

などですが、いずれにしろ編集担当者の自己満足で終らず、翌月号が待ち遠しいと言われるような内容の濃い館報づくりを目指し、研究を続けていきたいと思います。

◇分科会運営の準備状況

○平・14・7・25
当日の分科会事前打合せ会開催通知発送
司会・助言、発表者宛

○平・14・7・31
当日の分科会打合せ会資料送付
司会・助言、発表者宛

○当日の分科会の進め方
スケジュールのめやすは、次のとおり
14：00～14：10　運営責任者が開会と紹介
○ 14：10～14：30　発表者の事例発表
○ 14：30～15：20　質疑応答・研究討議
○ 15：20～15：40　休憩
15：40～16：30　研究討議
16：30～16：50　助言者のまとめ（司会の感想）
16：50～17：00　運営責任者が閉会（事務連絡等の伝達）

サークル交流

地域の子どもクラブを立ち上げて

新井市社会教育登録団体 トップハット

私たちは、新井市の「子縁人材活動」によって、学校のクラブ指導の機会に恵まれ、子どもと活動を共にすることの大きな喜びを味わうことができました。

この経験がばねになって、子どもと一緒の活動を楽しみたいとの強い思いから、子どもダンスクラブを作りたいと考えておりました。

そんな矢先に、地域で子どもクラブを立ち上げませんかとの社会教育課のお誘いもあり「フレッシュダンスクラブ」という地域の子どもクラブが、他の四クラブと共に誕生したのです。

小学四・五年生六人のミニクラブではありますが、学校の施設開放教室を利用して、月二回年間二十回の活動を始めました。

希望した子どもだけあって、意欲的であり、ステップやターンの覚えの早さに、びっくりしたり喜んだりしています。

自分たちの好きなダンスをとおして、子どもとかかわり、共に創り出していく学びの喜びを味わえることに感謝しています。

（トップハット代表　岡本　美重子　記）

自由な土曜日を有意義に過ごすために

土曜クラブ

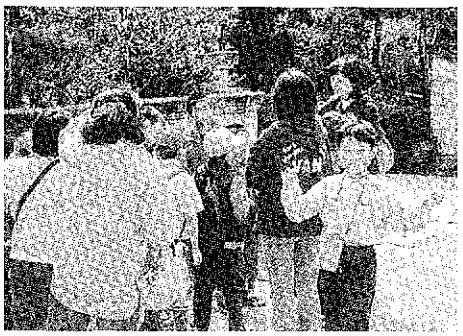
学校完全週五日制が始まった本年四月より、小学生を対象として活動を開始しました。現在十四世帯二十名がメンバーです。

活動日時は、毎週土曜日午前中で、九時から十時が学習ないし読書タイム、十時から遊びタイムとしています。今までに行った企画は、外遊びとしてハイキング、サッカーなど、室内では工作、料理などです。企画は約二ヶ月分ずつ親子一緒に話し合いながら決めています。

当サークルでは、子どもがやりたいことを掘り起こし、実現することを主目的にしています。固定メンバーは毎回参加することで交友を深める一方、メンバー外の子どもも混じって遊ぶことも多く、開かれたサークルとなっています。

都市部に比べ村部では、小学生を対象とした催しは選択肢が少ない現状です。しかし、企画の段階から子どもが参加でき、その時々の状況に応じて柔軟に対応できるのは、自主サークルのメリットと言えそうです。

（黒川村土曜クラブ代表　須藤　明子　記）



素顔拝見

新発田市公民館

主事　高口秀樹　さん

今年四月、我が公民館に〝熱き魂〟を持った男性がやって来ました。三月まで学校保健、学校給食に関する業務に従事。かなりの手腕家とは聞いていましたが、一緒に仕事をし、それを実感することとなりました。

彼の公民館初仕事は「山野草・さくら草展」。参加団体の皆さんともすぐに打ち解け、持ち前のリーダーシップで信頼を得て大成功に終わりました。

そんな熱き男の所以ははかにもあります。それはとても話し好きなことです。疑問があれば納得するまで質問し、とことん議論します。また、後輩の面倒見もよく、経験をもとに文書の書き方や仕事の進め方等、熱心に指導します。そんな先輩の姿を見習い、仕事をしようと思う私。

高口さんの公民館生活は始まったばかりです。これからも各種事業で新しいアイディアを出して活躍されることでしょう。

（新発田市公民館　佐藤　久美子　記）

大島村公民館

主事　滝沢　誠　さん

この春、新採用のフレッシュな新人君を紹介します。その名は、「タキザワ・マコト」。いつも「明るく・楽しく・元気よく！」の三拍子そろっている彼。たまに空回りするところが面白い。

主に、社会体育を担当している彼は、持ち前の明るさで、毎週のようにある事業をなんなくこなしています。

彼の得意とするものは、スポーツでは、バスケット、野球、本当かどうかは誰も知らないが、料理（特にチャーハン？）、飲酒…」

明るく、メリハリのある大きな声とバイタリティある行動は、少々くたびれ気味の先輩たちにも良い刺激となっています。

これからもいろいろなことで、苦労したり、悩んだりもすると思うけれど、「がんばれ！マコちゃん!!」

（大島村公民館　内山　昭子　記）

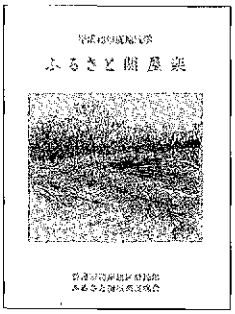
ネットワーク

恵贈資料紹介

平成13年度地域学
ふるさと関屋楽
新潟市関屋地区公民館 ふるさと関屋楽研究会

月報平・12月号実践シリーズ(43)で、大崎信子主任から報告済みではあるが、今回冊子として刊行されてみると、改めて評価が高まっている。

紙面の都合で詳細に紹介できないのがとても残念であるが、内容は大きく分けて、Ⅰ．関屋堀割、Ⅱ．関屋の生物で構成されている。



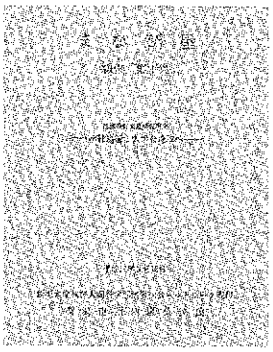
とくに関屋堀割の沿革、現在の関屋分水通水に到る経緯が興味深い。貴重な資料、古い写真等説得力十分の冊子である。

恵贈資料紹介

報告第1集
まなび屋
新潟大学教育人間科学部学習ネットワーク課程
新潟市西地区公民館

月刊公民館7月号資料紹介欄で、全国に向け広く内容分析の上記述紹介され、高い評価を受けている冊子である。内容は、Ⅰ．活動内容、Ⅱ．組織、Ⅲ．運営内容の変化、Ⅳ．授業・イベント、Ⅴ．みんなの声、Ⅵ．資料等から構成されている。

現代の学生は地域社会にかかわりたがらないのではないか、という大方の予想に反して、多くの学生たちが公民館という館をとおして、地域の子どもたちにかかわり、そして自らも変容、成長していく姿に感銘を受けた。

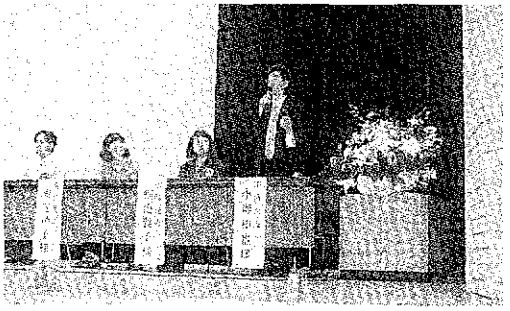


企画立案～事業、イベント、そして授業の展開～評価反省、幾多の試行錯誤を繰り返しながらユニークな教材、資料を開発、レポートをまとめ上げた皆さんに心より敬意を表したい。

もちろん、ネットワーク課程の大浦先生、西地区公民館田沢館長はじめ、スタッフの支援の大きさもうかがわれる。

第50回中越地区公民館研究大会開催される

○大会主題「地域とともに育む子どもたち」
～みんなで考える完全学校週5日制～
- 平成14年7月17日(水)
- 中之島町町民文化センター・文化ホール
- 300余名の参加を得て



梅雨の合い間を縫って中公連研究大会は、300余名の多数の参加を得て開催された。

開会セレモニーの後「学校5日制と子ども」～学校の取組みと公民館の期待～と題して、前小千谷市立小千谷小学校長であられた小林弘先生から70分にわたり基調提案がなされた。

次いで実践発表に移り、まず①「新井子縁(こえん)人材活動制度」について、行政支援の立場から新井市派遣社教主事の長谷川明寿様、実際活動に携るコーラス「ポエム」安達靖子様、桐山雅子様が、また②「なかさと・つなん週末学習プラン（ハローホリデー）」について、中里村派遣社教主事の小畔和也様から具体的な事例に基づいてなされた。

あとがき

◇第43回関ブロ大会も、いよいよ間近に迫って参りました。28日の袋詰め作業を目指して、細かい読みの段階に入っております。大会当日は好天に恵まれ、ひたすら無事成功裡に終了することを祈るのみです。

それでは大会当日、会場でお会いしましょう。（鈴木　記）

表紙解説

24時間耐久リレーマラソン「ロ・マン24」

10月の第1土、日曜日に開催、10人以内で24時間走り続ける過酷なレース、県内各地から健脚が集います。（松代町公民館）

発行所　新潟県公民館連合会
〒951-8053
新潟市川端町2—9・県林業会館内
TEL・FAX (025)224—6073
発行人　会長　今井昭友
編集人　事務局長　鈴木友夫
印刷　第一印刷所
〒950-8724
新潟市和合町2—4—18
TEL(025)285-7161 FAX(025)282-1776
【定価1部150円 〒共・年極1,800円】